

アークフラッシュされた全国48箇所の老人施設は8年間インフルエンザの発症が報告されておりません。

< \* > <http://www.arc-flash.co.jp> アークフラッシュNEWSをダウンロードによりご覧頂けます

<< 施工報告 >>

### 我孫子市 光触媒外装工事



ソウル市の広津区で5日に高病原性の鳥インフルエンザが発見されたのに次いで、松坡区でも違法飼育されていた鳥類から鳥インフルエンザウイルスが見つかった。

農林水産食品部は11日、松坡区庁が8日に病性鑑定を依頼した文井・長旨地区のカモについて国立獣医科学検疫院が調べた結果、鳥インフルエンザウイルスが発見されたと明らかにした。高病原性かどうかは12日ごろ判明する予定だ。これを受けソウル市は市内での感染拡大を防ぐため、同日夜から市内25区の公務員600人余りを動員し、市内全体の鳥類1万8647羽のうち文井・長旨地区を含む1万5438羽の家禽(かきん)類を処分することを決めた。ペット用は除かれる。松坡区はこれに先立ち同日午後、35農家で違法に飼育されていたニワトリやカモなど8175羽の鳥類の緊急処分と、周辺地域に対する防疫と疫学調査に入っている。ソウル市は今後市内でニワトリやカモを飼育したり生きた状態で搬入したりできないよう政府に建議し、ペット用の鳥類については住民の要請があれば安楽死させることにした。また、都市型鳥インフルエンザに備えたマニュアルを製作して大都市の特性に適した防疫対策を確立する。防疫当局と市は、文井・長旨地区に対しニワトリやカモを飼育した住民に予防薬を投与し、警察とともに地域内の施設に移動規制を敷き家禽類の外部流出を防ぐ方針だ。一方、8日に鳥インフルエンザの陽性反応が出て緊急処分が実施された釜山市江西区のカモ農場は、精密検

査により高病原性の鳥インフルエンザと 11 日に判明した。釜山で高病原性と最終確認されるのは今回が初めて。また、京畿道 安城市孔道邑の農場から6日に届け出のあった家禽類の死亡原因も高病原性のウイルスと判明した。

2008 年 5 月 10 日、シンガポールで呼吸器疾患の著名研究者である中国工程院の鐘南山 (ジヨン・ナンシャン) 院士が講演し、安徽省などを中心に流行している手足口病は感染率、死亡率ともに例年と同水準であり、ウイルスの突然変異など危険な事態には至っていないと主張した。新華社が伝えた。今年 4 月、安徽省の阜陽市政府はで現地住民から「サソの奇病」新型 SARS では？」と恐れられていた病気が手足口病であることを発表。同市ではこれまでに 22 人が死亡、中国全体の死者数は 9 日時点で 34 人に達している。手足口病は幼児、児童がかかる病気で感染力は強いものの症状は軽く通常は一週間程度で自然治癒する。ところが今年中国では次々と死亡例が報告されており、一部では「ウイルスが突然変異して病気の致死率が高まったのではないか」とうわさされている。10 日、鐘院士は講演会「SARS から 5 年後の教訓」で手足口病について触れ、ウイルスの突然変異などは起きていないと言明した。今年の感染者数がここまで増大した理由は衛生部が手足口病を丙類伝染病に指定したことにより報告数が増加したこと、2003 年に SARS を経験し、また近年手足口病への認知が高まったことにより患者が病院に行くケースが増えたためと分析した。鐘院士は「手足口病は極めて一般的な伝染病であり、予防と対策は十分に可能なもの。」

大阪市は 9 日、旭区の障害者施設で入所者 41 人と職員 12 人の計 53 人が下痢 (げり) や吐き気など感染性胃腸炎の症状を訴えたと発表した。うち 9 人からノロウイルスが検出され、市は集団感染と断定した。いずれも症状は軽く、快方に向かっているという

米北東部で、冬眠中のコウモリがカビだらけになって衰弱死する奇病が広がっている。今年は、5 州の洞窟 (どうくつ) や坑道 30 か所で、計数万匹が死んだ。原因は不明。人間に感染する恐れも否定できず、米地質調査所は「死骸 (しがい) を見つけたら触らず、報告を」と呼びかけている。この奇病は昨年 2 月、ニューヨーク州で見つかり、鼻先がカビで真っ白になることから「白い鼻症候群」と名付けられた。今年、病気が発生した洞窟では、絶滅の危険があるインディアナコウモリを含め、何種類ものコウモリが軒並み犠牲になり、死亡率は 80% 以上とほぼ全滅状態。死んだコウモリはやつれて体脂肪がなくなり、カビも 1 種類でないことなどから、同調査所は「カビは原因というより、衰弱の結果ではないか」とみている。米魚類野生生物局は「夏にはコウモリ 1 匹がひと晩で 3000 匹もの虫を食べる。雌は 1 年に 1 匹しか子を産まない」と、激減による生態系への影響を心配している。

ミャンマー赤十字社は 9 日、大型サイクロンが直撃し多数の死者が出たエヤワディ管区のデルタ地帯にあるラプッタとボガレで、多くの住民が下痢の症状を訴えていることを明らかにした。これらの被災地では感染症のまん延が懸念されている。一方、世界食糧計

画 (WFP) は同日、ラブッタの被災者にコメ20 トンとビスケット4 トンを配った。WFP はこれまで最大都市ヤンゴンとその周辺で食糧を配っていたが、同管区に活動範囲を拡大した。

**サイクロンに見舞われたミャンマーの被災地で、赤痢やコレラなどの感染確認が相次いでいる。** ヤンゴンの避難施設では、子ども 2 人が肺炎で死亡したとされ、軍事政権が国際救援機関などの入国を厳しく制限する中、被災者の健康状態の悪化が急速に高まっている。世界保健機関 (WHO) は 13 日、声明を出し、被災地で赤痢や下痢の患者が出ていると指摘した。また、WHO バンコク事務所もマラリアの発生を明らかにした。英国の非政府組織 (NGO) 「セーブ・ザ・チルドレン」には、コレラやデング熱の発生の報告が寄せられたという。国連児童基金 (ユニセフ) によると、多数の死者が出たエヤワデイ管区ボガレでは、医療従事者が少ない 1 つの病院に 1 日当たり 5000 人の患者が訪れ、医師や医薬品の不足が深刻になっている。

**\* 発行責任者 株式会社アークフラッシュ本部**

笹川 透

03-5337-7275 FAX 5337-7465 [sasagawa@arc-flash.co.jp](mailto:sasagawa@arc-flash.co.jp)

過去のアークフラッシュNEWS はホームページよりご覧になれます。